



屋内のようす

旧田中家住宅は、江戸時代後期、徳丸^{とくまる}本村^{ほんむら}に建てられた武蔵野の面影を残す農村集落の古民家です。旧田中家は典型的な茅葺屋根の寄棟造りで、間取りはデイ(表座敷)、ザシキ(奥座敷)、ヘヤと呼ばれたナンド(納戸)、板張りのオカッテ(お勝手)が田の字に配置されています。そして、広い土間^{どま}が設けられ、仕事の間と暮らしの間が一体となった江戸時代以来の農家の建築様式となっています。敷地は、現在緑道^{りょくどう}になっている旧前谷津川を南に見下ろす日当たりの良い緩斜面で、住むにも農作業にも最適の場所でした。

現在は板橋区立郷土資料館の敷地内に移築・一般公開され、板橋の歴史や古建築を知る上で貴重な存在となっています。



かまど

きゆうたなかけじゆうたく
旧田中家住宅
板橋区登録有形文化財(建造物)